

## 平成 21 年度第 1 回京都市図書館協議会摘録

- 日 時 平成 21 年 11 月 6 日 (金)  
15 時～17 時 30 分
- 場 所 京都市生涯学習総合センター  
3 階 第 3 研修室 A
- 出席委員 [10 名中 8 名出席]  
千葉 和子 委員  
直江 秀樹 委員  
青島 廣高 委員  
高越 恵美子 委員  
丸毛 静雄 委員  
五島 邦治 委員  
齋藤 みゆき 委員  
渡辺 昇治 委員 (五十音順)
- 傍聴者 なし

### 1 開会

- (1) 委員紹介
- (2) 中央図書館長の挨拶
- (3) 会長・副会長の選出  
会長に五島委員を選出，副会長に直江委員を選出。

### 2 報告事項

事務局から資料に基づき，以下の項目について報告した。

- (1) 図書館利用状況について
  - ・昨年 6 月 30 日の右京中央図書館開館の効果もあり，総貸出冊数，個人貸出人数，入館者数，個人登録者数，いずれの数値も 19 年度を大きく上回った。
  - ・総貸出冊数は 7,205,440 冊と 700 万冊を突破し，対前年度比 11.9%増。1 日あたり約 26,000 冊の本が京都市図書館で貸し出されている。
  - ・個人貸出人数は 1,970,562 人で，対前年度比 18.7%増。
  - ・入館者数は 4,085,513 人で，対前年度比 12%増。1 日約 15,000 人の入館がある。
  - ・個人登録者数は 350,843 人で，対前年度比 17.2%増。
  - ・個人登録者率は 23.9%で，前年度が 20.4%と市民 5 人に 1 人であったものが，ほぼ 4 人に 1 人が登録されている計算になる。
  - ・市民 1 人あたり貸出冊数が 4.9 冊，前年度は 4.4 冊。

- ・登録者 1 人あたり貸出冊数は 20.4 冊，前年度は 21.4 冊。個人貸出のうち児童書 1,483,325 冊，前年度比 10.5%増。予約 1,143,456 件のうちインターネットは 837,543 件，73%がインターネットでの予約。
- ・所蔵資料について，児童書が 543,447 冊で全蔵書のうち約 31%である。

## (2) 右京中央図書館開館後の状況について

- ・開館後 1 年の利用状況（平成 20 年 6 月 30 日～平成 21 年 6 月 29 日），入館者数 660,067 人，貸出点数 1,183,966 点，新規登録者数 18,600 人。予想をはるかに上回る大盛況。
- ・「入館者 66 万人を記録」と京都新聞で開館 1 年をとりあげていただくなど，市立図書館でトップの数字となった。
- ・主なイベントでは，源氏物語絵巻木版本の展示は 669 人鑑賞。雑誌創刊号の展示では，昭和 31 年から昭和 55 年にあった雑誌の創刊号を 174 冊設置し，1,041 人鑑賞。

## (3) 移動図書館の運用について

- ・市においては市民が図書館を身近に利用できるよう，半径 2 k m 圏内に図書館を設置するよう取り組んできたが，その圏内に入らない地域には，図書館サービスをすみずみにまで行き届かせるため移動図書館を運用している。
- ・昭和 25 年に青い鳥号として使用開始。昭和 39 年に初代のこじか号使用開始。昭和 63 年に個人貸出開始。平成 14 年から現在の 6 台目のこじか号を運用している。
- ・1 台約 2,000 冊本が入る。北，左京，山科，右京，西京，伏見等の周辺部を中心に巡回基地があり，現在 40 箇所，1 箇所を 1 サイクルで決まった日に巡回している。
- ・10 月から花背小・中学校の移転に伴い，旧花背小・中学校があった地域（別所地域）から基地がなくなるため近くの喫茶カウベルの協力を得て，この敷地で基地を確保するとともに，新しく移転した花背小・中学校に基地を設け，小・中学校の児童生徒に利用してもらっている。従来からの花背基地として運用していた J A 京都農協も残し，地域の方の利用を確保した。
- ・また，「広河原地域に多くの就学前の子どもがいるのでぜひ移動図書館に来て欲しい。」と地域の方から強い要望があり，広河原地域にも基地を設置することとした。

## (4) 図書館返却ポストの地下鉄駅等の設置について

- ・図書館の利便性向上のため，図書館に立ち寄ることなく通勤途中や買い物途中

に図書を返却できる図書館返却ポストを9月10日に設置した。

- ・地下鉄東西線の京都市役所前駅と、地域の要望もあり、京北合同庁舎2階の京北自治振興会図書室内の2箇所を設置し運用を開始した。
- ・従来は各図書館に閉館時間に利用してもらう返却ポストを運用してきた。今回は初めて、通勤途中で利用してもらえ、ターミナルで図書館の開館時間も利用できる返却ポストを設置した。今後については、2箇所の状況を見て検討していく。
- ・実績は市役所前駅の1日平均で、9月は27.1冊、10月は46.7冊とやや増加している。京北の1日平均は9月は1.2冊、10月は3冊である。市役所前の返却ポストは、高さ1.5m、幅1m、奥行き0.8mのステンレス製で約500冊入る。京北は小型の物。

#### (5) 学校図書館との連携について（学校団体貸出利用状況）

- ・学校団体貸出は平成20年4月から実施。京都市図書館が所蔵する資料を学校等（幼稚園、小・中・高・総合支援学校）に貸し出すことにより、学校図書館との連携を図り、学校等における子どもの読書活動の推進に寄与することを目的としている。
- ・この制度は、授業や朝読書、委員会活動、クラブ活動、放課後活動、学校の教育活動全般において利用できる。
- ・「調べ学習のための貸出」は、教科の学習や総合学習等、特定のテーマを決めた学習に必要な資料を、1学年40冊まで1箇月借りられる。
- ・「読書活動のための団体貸出」は、朝読書や学級文庫等テーマを決めず幅広い資料を、1学年200冊まで1箇月借りられる。「読書活動のための団体貸出」は最大1学校1,200冊借りられる。同じ行政区の図書館を各学校の担当館としている。
- ・団体貸出以外にも出前貸出、ブックトーク等を行い、学校との連携を図っている。

#### (6) 新・京都市子ども読書活動推進計画について

- ・平成21年4月から運用している。平成13年12月に子ども読書活動推進に関する法律が施行された。市では平成14年4月に学識経験者、作家、市民公募委員等多彩な方に参画いただき「京都市子ども読書活動振興市民会議」を発足させた。
- ・平成15年12月に市民会議から「子どもの読書活動振興のためのアピール」を提言いただいた。このアピールでは、子ども達に本との出会いを数多く作り、本の楽しさ、素晴らしさを伝えるとともに、本を読む力を育むため、学校、家

庭，地域で大人，子どもに実践すべきことを「伝える」，「勧める」，「育てる」，「整える」の 4 つのテーマを体系化，読まなくなった本を地下鉄や児童館に置き，再利用できるシステム作りや，学校や図書館とボランティアの方々が協力できるネットワーク作りをするという事が示された。

- ・平成 16 年 4 月に「京都市子ども読書活動推進計画」を策定し，学校や地域で様々な取組を展開してきた。計画期間は今年の 3 月までだったが，昨年 9 月に次期策定委員会を設置し，新たな「新・京都市子ども読書活動推進計画」を策定した。計画期間は平成 21 年から平成 25 年までの 5 年間。

### 3 報告事項に関する質疑応答

<質問>

移動図書館の 1 回の滞在時間が短いところをもっと長く滞在できるようにしてほしい。

<回答>

市内 40 箇所をこじか号 1 台で巡回しており，各所とも時間設定がいっぱい 1 箇所の滞在時間は増やせない状況にある。

<質問>

学校団体貸出のアピールはどんな形でしているか。

<回答>

昨年度は，小・中・総合支援学校の司書職員の研修会に出向いて説明。支部校長会にも出向きチラシと「京都市図書館学校への団体貸出取扱要領」を渡し説明。今年度の夏休み前には，上京・中京区の小学校を訪問し，同要領を渡し説明した。

<質問>

図書館返却ポストについて，設置した 2 箇所の選択理由と今後の増設計画は。

<回答>

- ・まず設置箇所の選択理由について。京北地域の方が京都市の図書館を利用される場合，多くが，最寄の右京中央図書館まで，車で借りに来てまた返しに来なければならず，せめて返却だけでも近くで窓口が設けられないかと地域の方々からの要望を受け，利便性向上を図るため設置した。
- ・今後の計画について。地下鉄市役所前駅は，今後の地下鉄駅での展開を考えていく上で試験的に設置しものである。地下鉄駅等に返却ポストを設置するためには，まずは集配トラックの駐車場所や運搬する台車の安全な通行経路が確保できることが必要であり，市役所前駅はそれに最も適していた。加えて，利用乗降客も比較的多いことなど，試験実施するための条件が最も整っていたのが市役所前駅であった。

運用開始からまだ 2 箇月と，利用状況データが少ないが，利用者のマナーも含め

今後の運用の目途が立ち好評であれば、乗降客が多い駅への設置も検討していきたい。

<質問>

学校団体貸出は市立学校のみか。私立学校もしているか。

<回答>

私立学校も同じ条件で実施している。

<質問>

ノーテレビ・ノーゲームデーは幼稚園だけで実施しているのか。図書館との関わりは。

<回答>

幼稚園，小・中・高・総合支援学校で実施している。活字に親しむという事もテーマのひとつとしてPTAが取り組んでいる。図書館も本を読んでもらうよう協力，支援をしていきたい。

<質問>

学校団体貸出の「調べ学習のための貸出」の方法は。テーマはどのような風に決めて借りているか。学校の先生からテーマの希望があるか。

<回答>

事前にFAXで申し込んでいただき，担当館で資料を揃える。担当館は資料がなければ他の館からもテーマにあった資料を取り寄せることもしている。学校からのテーマの希望もある。

<質問>

図書館からテーマを決めて本をセットにして貸し出してみてもどうか。本をよく知ってる図書館が提供してもらえるとありがたい。

<回答>

検討していきたい。

#### 4 協議事項

(1) 市民に役立つ図書館のアピールについて（京都市図書館での取組例の紹介）

ア 京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）をはじめ，市内生涯学習施設との連携を図り，催し等の関連図書を紹介する取組（中央図書館）

イ 小学生に対するブックトーク（本の紹介）やストーリーテリング（素話）の取組（全図書館）

ウ 「本の木を育てよう！」の取組（中央図書館）

エ 旬のテーマに関する図書を紹介する取組

オ 図書館職員が所蔵図書を持参して小学校に出向き，児童（1・2年生，育成学級）を対象に図書の貸出しを実施する取組（醍醐中央図書館）

カ ティーンズを対象とした取組（右京中央図書館・醍醐中央図書館）

キ 読み聞かせ講座の取組（全図書館）

ク 京図ものがたりの発行

## （2）意見交換

- ・ 広報の対象が限られているのではないか。主婦やお年寄などへ、もっとまちな入り込んでアピールできないか。京都は掲示板が多くあり情報が積極的に貼り出されている。この仕組みを活かして図書館のPRのポスターを貼ることはできないか。  
⇒本市広報版はアピールに有効な媒体だと思う。掲示希望が多く競争が激しいが、貴重な御意見として伺っておく。
- ・ 京都では図書館がここにあるというアピールが小さい。観光案内の地図にも載っていないし、図書館の存在を示す看板もない。
- ・ 障害者の方へのアピールが少ない。電動車イスが通りにくく、本が高い所にあり、車イスから取りにくい。また、自分の読みたい本を探すのに介護人の世話になるのも抵抗がある。書架の間から職員を呼べるような仕組はできないか。弱者にとって居心地の良い図書館作りを目指していただきたい。
- ・ 子どもに大切なのはお話と自然。例えば図書館から職員が植物園に出向き、絵本の紹介やお話会を開く等の取組をしてはどうか。本への興味が一段と近づくとと思う。
- ・ 子ども向けの情報提供も大切だが、大人、ビジネスマン向けの情報提供が不足している。大阪府立の図書館ではビジネス支援サービスを行っており、ビジネスマン向けにアピールしている資料がある。京都でも京都ならではの、ビジネスマン向けの情報提供を検討していただきたい。
- ・ 各館の特色を意識した取組（各館の特化）を考えてはどうか。
- ・ 仕事を退職されたボランティアの方が図書館で演劇や紙芝居をしていた、と新聞に載っていた。団塊の世代等、図書館が地域作りの場になるきっかけを作っている。
- ・ 京都の学者や職人の協力を得て、いわゆる“本物”の情報を図書館が提供することを考えてはどうか。
- ・ 図書館に利用者から本に関する質問などはよくあるのか。  
⇒レファレンスでは、何でも聞いてくださいとアピールしており、本に関することなら答える。20年度は参考業務の件数が約37,000件あった。
- ・ 図書館の本には古い情報のものも資料としてたくさん保存されており、新しい情報と対比して学べる。そういう図書館の本の活用方法を考えてもよいのではないか。

## 5 閉会